

発 言 通 告 書 要 旨 (1枚目/全4枚)

氏 名 東野 真樹

発言番号		発言事項及び発言要旨	備 考
1	(1)	<p>エアモビリティ産業創出事業について</p> <p>エアモビリティ関連企業誘致業務費について</p> <p>市内の新たな産業基盤として、空の産業の集積を目指して研究・開発から生産・整備まで実施できる環境整備を行うとの事だが、実現に向けては、主体となる企業・製造工場が市内に必要となる。</p> <p>エアモビリティ関連企業誘致業務費として100万円を計上しているが、主体候補となる企業の目星はあるのか。関連企業も含めた誘致業務の内容を問う。</p> <p>また、産業の集積を進めるためには、規制緩和や新たな法制度の導入が必要となるが、加賀市次世代エアモビリティコンソーシアムを運営し、まずはどのようなことを検討しなければならないと考えているのか。</p>	
	(2)	<p>地元企業発展に向けた連携について</p> <p>ものづくり産業が基幹産業の一つである加賀市にとって、ドローン産業の集積が、地域産業の発展に大きな影響を与えると期待している。新たな産業を創出する上で、開発段階から、生産に向けた設備投資や技術支援、それに伴う人材育成などが重要となるが、重要となる地元企業との連携については、どのようにしていこうと考えているのか。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全4枚)

氏 名 東野 真樹

発言番号	発言事項及び発言要旨	備 考
2	<p>加賀市の農産物・海産物、その他の地域資源を一体的に活用した観光戦略について</p> <p>加賀市は、石川県内でも数少ない、米（コシヒカリ・ひやくまんごく）、野菜・果物（ブロッコリー・味平かぼちゃ・ルビーロマン・加賀しずくなど）、海産物（加能ガニ・甲箱ガニ・のどぐろ・甘えび）の特産品が三拍子そろった地域である。さらに、地酒やお茶、坂網鴨、山中漆器や九谷焼の器と組み合わせると、全国でも有数の食文化のまちである。</p> <p>この地域資源を「一体的に活用」し観光振興にどう活かすかが今後の観光戦略の鍵を握っていると思うが、これまでの事業を見ると各分野における取り組みが多く、一体的な取り組みとなっていないように感じる。</p> <p>例えば、これまで行ってきたトップセールスに観光関連事業者だけでなく、JA加賀やJFいしかわ、酒造事業者にも協力を得るなど、プロモーション事業においてあらゆる分野の参加を募り一体的に売り込んでどうかと考える。また、体験型観光商品の開発においても、JA加賀やJFいしかわと連携した「農業体験」や「漁業体験」、農家や漁師と連携した「料理教室」、酒造事業者と連携した「酒造体験」を行い、山中漆器や九谷焼体験で作った器で食するなど、これまでなかったワクワクする商品が作れるのではないかと考える。</p> <p>地域資源を最大限に活用し一体的な取り組みとすることで、「つくる・たべる・癒される」といった特色ある温泉地となり、観光産業が大きく発展するのではないかと考えるが所見を問う。</p>	
3	<p>(1) 創造性を育む保育実践事業について 伴走支援の強化について</p> <p>レッジョ・エミリア・アプローチからの学びを取り入れた「加賀市アプローチ」を進めていくためには、保育実践における伴走支援の強化は必要である。これまでの保育とは違い、保育士は児童一人一人の行動・発想・発言を捉えるだけでなく、探究する事で児童の創造性を育まなければならない。さらにその様子を保護者や地域、市外に向けてプロモーションしなくてはならないので、保育士の負担が増える事が課題であると思う。</p> <p>今年度は、主にリーディング4園での伴走支援であったと聞いているが、次年度、公立全園で実施するにあたって、どのような体制で臨むのか。</p> <p>また、保育士資格がなくてもできる、プロモーションに関する業務に対しては、資料作成等PCに強い人材を伴走支援者として派遣する事で、保育士の負担が軽減されると考えるが、保育士の負担軽減についての支援策を考えているのか。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目/全4枚)

氏 名 東野 真樹

発言番号	発言事項及び発言要旨	備 考
(2)	<p>人材育成研修について</p> <p>先月、動橋地区会館で行われた、加賀市の保育の報告会で、加賀市アプローチを取り入れた園の保育士から、「考えてしまう自分がいて思うようにできなかったが、こどもが大好きなので頑張りたい」などの意見があったが、このような保育士の意見に対し、どのようにして応えていこうと考えているのか。新しく始める園や新任保育士も含め、研修対象が増える令和7年度の人材育成研修はどのようにして行うのか。昨年度の研修を踏まえての課題・見直した点、対象者など研修内容の詳細を問う。</p>	
(3)	<p>保護者や地域への理解促進について</p> <p>今年度、保育実践した「加賀市アプローチ」の保育事例は、加賀市の恵まれた自然（植物、雨、雲などの天候）からの学びを探究したものがほとんどであったと聞いており、自然を活かした保育実践はこの地ならではの絶好の素材であると思っている。</p> <p>一方で、外出の機会が増え、あらゆる場所で物に触れる事が多いこの保育を実践するためには、けがやかぶれなどが発生するリスクがあると思うが、将来の子供達の成長を重視した場合、多少のリスクがあっても、この学びが将来の成長に向けてどれだけ大切であるのか、保護者や地域の方々によく理解してもらい進めていくことが、この保育を推進する上での鍵であると考えている。</p> <p>保育園にとって悩ましい課題であるこのリスク問題については、各園に任せるのではなく、市が先頭となって解決しなければならない事だと考えているが、今後どの様にして理解促進を図っていこうと考えているのか。</p>	
4	<p>こども育成相談センター整備事業について</p> <p>老朽化している旧京達幼稚園内に設置している「こども育成相談センター」を、旧加賀商工会議所を整備し移転させるとの事であるが、事業予算1,000万円でどのような整備をするのか。移転時期も含めた事業内容の詳細を問う。</p>	

発言通告書要旨 (4枚目/全4枚)

氏名 東野 真樹

発言番号		発言事項及び発言要旨	備考
5	(1)	<p>学校教育ビジョン推進事業について 空間デザイン教室について</p> <p>加賀市学校教育ビジョン (BE THE PLAYER) の特徴でもある空間デザイン教室について、現在整備した小・中学校は何校あるのか。また、空き教室がなく整備ができない学校があると聞いているが、そのような学校は何校あるのか。加賀市学校教育ビジョンを進めていく上で重要となる空間デザイン教室についての整備状況と今後の方針を問う。</p>	
	(2)	<p>学校内サポートルーム (SSR) の拡充事業について</p> <p>令和7年度は、15校から22校へ拡充するとの事であるが、これまで行った整備及び令和7年度の整備内容の詳細を問う。また支援員の人件費を計上しているが、どのような人材を採用しているのか。仕事内容も含めた事業内容の詳細を問う。</p>	
6		<p>高校魅力化事業について</p> <p>高校の消滅は、地方の衰退・人口減少・過疎化を進める大きな原因と言われているが、令和6年度は約1,655万円であった事業が令和7年度は566万円となっている。人口減少問題が大きな課題である加賀市にとって、次年度はどのような事業を考えているのか。削減した理由も含めた事業内容の詳細を問う。</p> <p>また、今年の南加賀3地域 (加賀、小松、能美) の公立高校出願倍率は、昨年と同様大聖寺高校・小松高校の2校以外の6校10学科で定員割れとなっているが、この実態を市としてどのように分析しているのか。進路先アンケート調査などの結果も踏まえた、市の見解も併せて問う。</p>	